

9.3 生物・生態系

9.3.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.3-1 に示すとおりである。

表 9.3-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア. 陸上植物の状況

調査方法は、表 9.3-2 に示すとおりである。

表 9.3-2 陸上植物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺とした。 (図 9.3-1 参照)	・植物相 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・植物群落 夏の二季とした。	・植物相 任意観察法 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ. 陸上動物の状況

調査方法は、表 9.3-3 に示すとおりである。








表 9.3-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺とし、以下の地点とした。 (図 9.3-1 参照) ・哺乳類 1 地点とした。 ・鳥類 1 地点、1 ラインとした。 ・昆虫類(トラップ) 1 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・両生類・は虫類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・昆虫類 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・クモ類 春、初夏、夏、秋の四季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法、夜間調査(バットディテクター)による。 ・鳥類 任意観察法、定点観察法、ラインセンサス法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意観察法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法による。 ・クモ類 任意観察法による。



(©NTT空間情報株式会社)

凡例

- | | |
|--|--|
|  計画地 |  任意観察法調査範囲 |
|  区界 |  哺乳類トラップ調査地点 (No.1) |
|  東京臨海新交通臨海線 (ゆりかもめ) |  鳥類定点調査地点 (No.1) |
|  東京臨海高速鉄道 (ゆんかい線) |  鳥類ラインセンサス (L-1) |
| |  昆虫類トラップ調査地点 (No.1) |



Scale 1:10,000



図 9.3-1 生物・生態系調査地点

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」(国土地理院)、「土地条件図」(平成 25 年 8 月 国土地理院)の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」(平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター)の既存資料の整理によった。また、現地調査により、計画地及びその周辺の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 7 月 25 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、東京管区気象台の気象データを整理・解析した。

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 23 年東京都区部」(平成 25 年 5 月 東京都都市整備局)等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号)等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」(平成 27 年 3 月 東京都)、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成 26 年 5 月 東京都)の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.3-4 に示す時期に実施した。

表 9.3-4 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
有明アリーナ	陸上植物の 状況	植物相	春季：平成 26 年 5 月 1 日 初夏季：平成 26 年 5 月 20 日 夏季：平成 26 年 7 月 25 日 秋季：平成 26 年 10 月 9 日
		植物群落	夏季：平成 26 年 7 月 25 日
	陸上動物の 状況	哺乳類	秋季：平成 25 年 11 月 21, 26, 27 日 冬季：平成 26 年 1 月 22, 23 日 春季：平成 26 年 5 月 13, 14 日 夏季：平成 26 年 8 月 13, 14 日
		鳥類	秋季：平成 25 年 11 月 21 日 秋季：平成 26 年 9 月 24 日 冬季：平成 26 年 1 月 23 日 春季：平成 26 年 5 月 1 日 初夏季：平成 26 年 6 月 4 日 夏季：平成 26 年 8 月 6 日
		は虫類	秋季：平成 25 年 11 月 21 日 冬季：平成 26 年 1 月 23 日 春季：平成 26 年 5 月 13 日 初夏季：平成 26 年 6 月 24 日 夏季：平成 26 年 8 月 13, 14 日
		両生類	秋季：平成 25 年 11 月 21 日 冬季：平成 26 年 1 月 23 日 春季：平成 26 年 5 月 13 日 初夏季：平成 26 年 6 月 24 日 夏季：平成 26 年 8 月 13, 14 日
		昆虫類	秋季：平成 25 年 11 月 26 日 秋季：平成 26 年 10 月 16, 17 日 春季：平成 26 年 5 月 20, 21 日 初夏季：平成 26 年 6 月 23, 24 日 夏季：平成 26 年 8 月 4, 5 日
		クモ類	秋季：平成 25 年 11 月 26 日 秋季：平成 26 年 10 月 16, 17 日 春季：平成 26 年 5 月 20, 21 日 初夏季：平成 26 年 6 月 23, 24 日 夏季：平成 26 年 8 月 4, 5 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-5(1)～(4)に示すとおり 65 科 238 種の植物が確認された。

計画地は東雲運河沿いの埋立地で、造成後に自然繁茂した草地在る。このうち、比較的乾燥した箇所ではセイタカアワダチソウやチガヤ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ヨモギ、ギョウギシバ、ネズミムギ、エノコログサ、セイバンモロコシ等が生育している。また、水分の多い箇所ではヨシ、ヒロハホウキギク、アメリカセンダングサ、ヒメガマ、エゾウキヤガラ、ユメノシマガヤツリ、ヤマイ等が生育している。

樹木は、計画地周辺では街路樹等としてケヤキやサルスベリ、アメリカヤマボウシ、サツキ、ドウダンツツジ等が植栽されており、計画地内では実生由来のトウネズミモチの低木やハリエンジュが点在している。

表 9.3-5(1) 植物確認種

No.	科名	和名
1	トクサ科	イヌドクサ
2	ゼンマイ科	ゼンマイ
3	フサシダ科	カニクサ
4	コバノイシカグマ科	ワラビ
5	メシダ科	イヌワラビ
6	ブナ科	マテバシイ
7	ニレ科	ムクノキ
8		エノキ
9		アキノレ
10		ケヤキ
11	クワ科	ヤマグワ
12	イラクサ科	ヤブマオ
13		カラムシ
14	タデ科	オオイヌタデ
15		イヌタデ
16		スイバ
17		アレチギシギシ
18		ナガバギシギシ
19		ギシギシ
20	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ
21	スベリヒユ科	スベリヒユ
22	ナデシコ科	オランダミミナグサ
23		ツメクサ
24	アカザ科	ホコガタアカザ
25		シロザ
26		アリタソウ
27		ウラジロアカザ
28	クスノキ科	クスノキ
29		タブノキ
30	ツツラフジ科	アオツツラフジ
31	ドクダミ科	ドクダミ
32	ツバキ科	カンツバキ
33		サザンカ
34		ハマヒサカキ
35		ナツツバキ
36		モッコク
37	オトギリソウ科	キンシバイ
38	ケシ科	タケニグサ
39	アブラナ科	マメグンバイナズナ
40	マンサク科	トサミズキ
41	ベンケイソウ科	オカタイトゴメ
42	ユキノシタ科	ウツギ
43		ガクアジサイ

表 9.3-5(2) 植物確認種

No.	科名	和名
44	バラ科	ベニシタン
45		カナメモチ
46		オキヅムシロ
47		ヤマザクラ
48		タチバナモドキ
49		カザンデマリ
50		テリハノイバラ
51		ナワシロイチゴ
52		ユキヤナギ
53		マメ科
54	ヤブマメ	
55	ツルマメ	
56	マルバヤハズソウ	
57	ヤハズソウ	
58	メドハギ	
59	ネコハギ	
60	コメツブウマゴヤシ	
61	シナガロハギ	
62	クズ	
63	ハリエンジュ	
64	コメツブツメクサ	
65	ムラサキツメクサ	
66	シロツメクサ	
67	ヤハズエンドウ	
68	スズメノエンドウ	
69	カスマグサ	
70	カタバミ科	カタバミ
71		アカカタバミ
72		オッタチカタバミ
73	フウロソウ科	アメリカフウロ
74	トウダイグサ科	コニシキソウ
75		ナンキンハゼ
76	ウルシ科	ヌルデ
77	カエデ科	イロハモミジ
78	モチノキ科	クロガネモチ
79	ニシキギ科	ツルウメモドキ
80	ブドウ科	ノブドウ
81		ヤブガラシ
82		エビツル
83	アオイ科	フヨウ
84		ムクゲ
85	グミ科	アキグミ
86	ミソハギ科	サルスベリ
87	アカバナ科	メマツヨイグサ
88		コマツヨイグサ
89		ユウゲショウ
90	ミズキ科	アメリカヤマボウシ
91	ウコギ科	キツタ
92	セリ科	ノラニンジン
93	ツツジ科	ドウダンツツジ
94		サツキ
95	モクセイ科	シマトネリコ
96		トウネズミモチ
97		キンモクセイ
98	リンドウ科	ベニバナセンブリ
99		ハナハマセンブリ
100	ガガイモ科	ガガイモ
101	アカネ科	ヤエムグラ
102		ヘクソカズラ
103	ヒルガオ科	コヒルガオ
104		ヒルガオ
105	ムラサキ科	ハナイバナ
106		キュウリグサ
107	クマツヅラ科	ムラサキシキブ
108		アレチハナガサ
109		ダキバアレチハナガサ
110		ヒメクマツヅラ
111		クマツヅラ
112	シソ科	ホトケノザ
113		ヒメオドリコソウ
114		マルバハッカ
115		イヌコウジュ
116	ナス科	クコ
117		ヒヨドリジョウゴ
118		イヌホオズキ
119		アメリカイヌホオズキ
120	フジウツギ科	フジウツギ

表 9.3-5(3) 植物確認種

No.	科名	和名	
121	ゴマノハグサ科	トキワハゼ	
122		ビロードモウズイカ	
123		アレチモウズイカ	
124		タチイヌノフグリ	
125		ムシクサ	
126	ハマウツボ科	ヤセウツボ	
127	オオバコ科	ヘラオオバコ	
128	スイカズラ科	ハナツクバネウツギ	
129		スイカズラ	
130	キク科	ブタクサ	
131		オオブタクサ	
132		カワラニンジン	
133		ヨモギ	
134		ヒロハホウキギク	
135		ホウキギク	
136		アメリカセンダングサ	
137		コセンダングサ	
138		アメリカオニアザミ	
139		アレチノギク	
140		オオアレチノギク	
141		アメリカカタサブドウ	
142		ヒメムカシヨモギ	
143		ハルジオン	
144		ハハコグサ	
145		セイタカハハコグサ	
146		チチコグサモドキ	
147		ウラジロチチコグサ	
148		キクイモ	
149		キツネアザミ	
150		オオヂシバリ	
151		イワニガナ	
152		アキノノゲシ	
153		ホソバアキノノゲシ	
154		フキ	
155		コウゾリナ	
156		セイタカアワダチソウ	
157		オニノゲシ	
158		ノゲシ	
159		ヒメジョオン	
160		セイヨウタンポポ	
161		カントウタンポポ	
162		イガオナモミ	
163		オオオナモミ	
164		オニタピラコ	
165		ユリ科	キダチアロエ
166			ヤブラン
167			ジャノヒゲ
168		ヤマノイモ科	ヤマノイモ
169		アヤメ科	ニワゼキショウ
170	オオニワゼキショウ		
171	イグサ科	イ	
172		クサイ	
173	ツユクサ科	ツユクサ	
174	イネ科	アオカモジグサ	
175		カモジグサ	
176		コヌカグサ	
177		メリケンカルカヤ	
178		コブナグサ	
179		コバンソウ	
180		ヒメコバンソウ	
181		イヌムギ	
182		スズメノチャヒキ	
183		ヤマアワ	
184		ギョウギシバ	
185		カモガヤ	
186		メヒシバ	
187		アキメヒシバ	
188		イヌビエ	
189		ケイヌビエ	
190		オヒシバ	
191		シナダレスズメガヤ	
192		コスズメガヤ	
193		オニウシノケグサ	
194		オオウシノケグサ	
195		ケナシチガヤ	

表 9.3-5(4) 植物確認種

No.	科名	和名
196		チガヤ
197		ネズミムギ
198		ホソムギ
199		オギ
200		ススキ
201		ヌカキビ
202		オオクサキビ
203		シマスズメノヒエ
204		キシユウスズメノヒエ
205		スズメノヒエ
206		タチスズメノヒエ
207		ヨシ
208		ツルヨシ
209		スズメノカタビラ
210		ナガハグサ
211		イチゴツナギ
212		オオスズメノカタビラ
213		ヒエガエリ
214		アキノエノコログサ
215		キンエノコロ
216		エノコログサ
217		オオエノコロ
218		セイバンモロコシ
219		ネズミノオ
220		ナギナタガヤ
221		シバ
222	ガマ科	ヒメガマ
223		ガマ
224	カヤツリグサ科	エゾウキヤガラ
225		アゼナルコ
226		アオスゲ
227		オオアオスゲ
228		ノゲヌカスゲ
229		ミコシガヤ
230		チャガヤツリ
231		ヒメクグ
232		ユメノシマガヤツリ
233		メリケンガヤツリ
234		ヌマガヤツリ
235		ハマスゲ
236		テンツキ
237		イソヤマテンツキ
238		ヤマイ
計	65 科	238 種

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物Ⅰ（維管束植物）」（平成24年8月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京2013（本土部）」（平成25年3月 東京都）に該当する掲載種を注目される植物種として抽出した結果、表9.3-6に示す2種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表9.3-7に示すとおりである。



表9.3-6 注目される植物

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	マンサク科	トサミズキ			NT	
2	カヤツリグサ科	イソヤマテンツキ				NT
計	2科	2種	0種	0種	1種	1種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和25年法律第214号）、東京都文化財保護条例（昭和51年東京都条例第25号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物Ⅰ（維管束植物）」（平成24年8月 環境省）の記載種
NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京2013（本土部）」（平成25年3月 東京都の区部に該当する掲載種
NT:準絶滅危惧

表9.3-7 注目される植物の生態及び確認状況

<p>【種名】：トサミズキ 【分布】：高知県の岩地にのみ生える。 【形態】：落葉低木で、花期は3月末～4月。 【確認状況】：夏季及び秋季に、計画地外の都道脇の植栽帯に植えられた7個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：イソヤマテンツキ 【分布】：本州(千葉、石川以西)、四国、九州、南西諸島 【形態】：一年草。叢生する。海岸の塩性湿地に生育する。 【確認状況】：夏季に、計画地外の草地に生育する個体が確認された。</p>	

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」（平成元年2月 (株)平凡社）、「日本の野生植物 木本Ⅱ」（平成元年2月 (株)平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅰ」（昭和57年1月 (株)平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅱ」（昭和57年3月 (株)平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅲ」（昭和56年10月 (株)平凡社）による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等を区分した結果、表 9.3-8 に示すとおりである。

調査地域は、一年生草本群落は 1 区分、多年生草本群落は 2 区分、単子葉草本群落は 3 区分、木本群落は 3 区分、人工構造物その他区分が 4 区分、計 13 区分に分類された。

表 9.3-8 植生区分

植生区分	群落名	概要
一年生草本群落	シナガワハギ群落	有明地区の造成地に見られた高茎草本群落。シナガワハギが優占し、チガヤ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等が混生する。
多年生広葉草本群落	セイタカアワダチソウ群落	セイタカアワダチソウが優占するほか、ヨモギやススキ、コセンダングサ等が混生する。
	カゼクサ-オオバコ群落	ギョウギシバやシロツメクサが優占するほか、オオバコ、ヘラオオバコ、ムラサキツメクサ、ヨモギ等が混生する。
単子葉草本群落	ヨシ群落	ヨシが優占するほか、ガマやヒメガマが混生する箇所も見られる。
	セイバンモロコシ群落	セイバンモロコシが優占し、セイタカアワダチソウ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ヨモギ等が混生する。
	チガヤ群落	チガヤが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ムラサキツメクサ、ヤブガラシ等が混生する。
木本群落	植栽樹林群（常緑広葉）	スタジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（落葉広葉）	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（混交）	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。
その他	人工裸地	土地被覆が人工裸地のもの。
	人工構造物	土地利用が建築物等のもの。
	道路	土地利用が道路のもの。
	開放水面	運河、海域。

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-9 に示すとおりである。夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認され、確認種数は 1 目 1 科 1 種であった。

表 9.3-9 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 25 年度		平成 26 年度	
				秋季	冬季	春季	夏季
1	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科			○	○
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種はなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-10 に示すとおり 10 目 26 科 44 種の鳥類が確認された。

確認された鳥類は、陸鳥ではオナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キビタキ等の樹林性の種のほか、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ等の草地性の種であった。また、水鳥では、カモ類のカルガモや、アオサギやコサギといったサギ類、キアシシギやイソシギといったシギ類が確認された。

確認された種の多くは留鳥が占める構成となったが、春季にはキアシシギ、キビタキ等の旅鳥の他、渡去の遅れた冬鳥としてツグミが、初夏には夏鳥としてオオヨシキリが各々確認され、夏には夏鳥としてツバメが確認された。また、外来種であるカワラバトも確認された。

表 9.3-10 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度		平成 26 年度			
				秋季	冬季	春季	初夏 季	夏季	秋季
1	カモ目	カモ科	カルガモ	○	○	○	○		
2			ホシハジロ		○				
3			スズガモ	○	○				
4	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	○					
5	ハト目	ハト科	キジバト	○		○			
6	カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○
7	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ			○	○	○	
8			アオサギ	○	○	○	○	○	○
9			ダイサギ			○	○		○
10			コサギ	○		○	○	○	○
11	チドリ目	シギ科	キアシシギ			○			
12			イソシギ	○	○	○		○	○
13		カモメ科	ユリカモメ	○					
14			ウミネコ			○	○		
15			セグロカモメ		○				
16	タカ目	タカ科	トビ		○				
17			ハイタカ		○				
18			ノスリ		○				
19	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○					
20	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ		○				
21	スズメ目	モズ科	モズ	○	○				
22		カラス科	オナガ				○		○
23			ハシボソガラス		○				
24			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
25		シジュウカラ科	シジュウカラ				○		○
26		ヒバリ科	ヒバリ				○		
27		ツバメ科	ツバメ					○	
28		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○			○
29		ウグイス科	ウグイス	○	○				
30		メジロ科	メジロ	○	○				
31		ヨシキリ科	オオヨシキリ				○		
32		セッカ科	セッカ	○	○	○	○	○	
33		ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○		○
34		ヒタキ科	ツグミ		○	○			
35			ジョウビタキ	○	○				
36	キビタキ				○				
37	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○		
38	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○		○		
39		タヒバリ	○	○					
40	アトリ科	カワラヒワ	○	○		○			
41	ホオジロ科	ホオジロ	○	○					
42		カシラダカ	○	○					
43		アオジ		○					
44	(ハト目)	(ハト科)	カワラバト	○	○		○		
計	10 目	26 科	44 種	24 種	29 種	18 種	17 種	10 種	10 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.3-11 に示す 13 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.3-12(1)～(3)に示すとおりである。






表 9.3-11 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	カモ目	カモ科	スズガモ				*
2	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ				*
3	ペリカン目	サギ科	ダイサギ				VU
4			コサギ				VU
5	チドリ目	シギ科	キアシシギ				VU
6			イソシギ				VU
7	タカ目	タカ科	トビ				NT
8			ハイタカ			NT	EN
9			ノスリ				EN
10	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ				EN
11	スズメ目	モズ科	モズ				VU
12		ヒバリ科	ヒバリ				VU
13		ヨシキリ科	オオヨシキリ				VU
計	7 目	9 科	13 種	0 種	0 種	1 種	13 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 * : 留意種

表 9.3-12(1) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：スズガモ 【分布】：北海道、本州、四国、九州で冬鳥。 【形態】：河口、内湾、港などに生息する。潜水してアサリなどの貝類などを食べる。 【確認状況】：秋季調査において、調査範囲の水辺環境において休息する個体が確認された。冬季調査において、調査範囲の水辺環境において休息する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：カンムリカイツブリ 【分布】：本州、四国、九州では冬鳥。本州の一部(青森、秋田、琵琶湖など)では繁殖。 【形態】：湖沼、池、河川、河口、海岸などの広い水域に生息する。水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：秋季調査において、調査範囲の水辺環境において採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ダイサギ 【分布】：本州では漂鳥。四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：水田、湿地、河川、湖沼、池、河口、干潟などの浅い水域で採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林で集団で営巣する。魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：春季及び初夏に調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。また、秋季には調査範囲北側護岸で個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：コサギ 【分布】：本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：水田、河川、湖沼、干潟など浅い水辺で、採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林に集団で営巣し、休息する。魚類やカエル類、甲殻類や昆虫類などを食べる。 【確認状況】：冬季を除く全ての時期で確認されており、調査範囲の上空を飛翔する個体や、北側護岸や中洲で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：キアシシギ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形態】：干潟、河口、岩場、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：春季に夜間調査において、調査範囲の北側の中洲で地鳴きが確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：イソシギ 【分布】：北海道、本州(東北北部)では夏鳥。本州(東北南部以南)、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：河川、湖沼、海岸、干潟などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。海岸の砂洲や河川の中洲などの草地で営巣する。 【確認状況】：初夏を除く全ての時期に確認され、北側の中洲や護岸周辺での採餌、水面を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>


注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

表 9.3-12(2) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：トビ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：海岸部や平地の、河川・池沼に多いが、高山にも生息する。樹林で繁殖し、主に死肉を食べるが、ネズミ類、ヘビ類、カエル類などの小動物を食べることもある。</p> <p>【確認状況】：冬季調査において、調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ハイタカ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の樹林、耕作地、河川敷に生息し、営巣は普通、樹林内に行く。主にスズメ、シジュウカラなどの小鳥を食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季調査において、調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ノスリ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。</p> <p>【形態】：山地の樹林で繁殖し、冬は広大な干拓地、河川敷、耕作地などで越冬する。主にネズミ類などの小動物を食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季調査において、調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：チョウゲンボウ</p> <p>【分布】：北海道、本州（中部以東）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季調査において、調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：モズ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・は虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季調査において、調査範囲の草地や低木において採餌する個体が確認された。冬季調査において、調査範囲の人工構造物にとまって採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒバリ</p> <p>【分布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥または漂鳥。四国、九州では留鳥。</p> <p>【形態】：草地、耕作地などに生息し、植物の種子や昆虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：初夏に調査範囲の南側草地上空にてさえずりが確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

表 9.3-12(3) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：オオヨシキリ 【分布】：北海道、本州、四国、九州で夏鳥。 【形態】：河口、河川、湖沼のヨシ原などに生息し、昆虫類やクモ類などを食べる。 【確認状況】：初夏季に計画地内の草地にてさえずりが確認された。</p>	
---	---

出典：「レッドデータブック東京 2013」

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-13 に示すとおりである。明るい草地脇のコンクリート護岸上でニホンカナヘビが確認され、確認種数は1目1科1種であった。

表 9.3-13 は虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度		平成 26 年度		
				秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ			○		○
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種	1 種

b. 注目される種

確認されたは虫類のうち、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の掲載種を抽出した結果、表 9.3-14 に示す 1 種が該当した。

注目されるは虫類の生態及び確認状況は、表 9.3-15 に示すとおりである。


表 9.3-14 注目されるは虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ				VU
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
 - ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
 - ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
 - ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
- VU: 絶滅危惧 II 類

表 9.3-15 注目されるは虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ニホンカナヘビ 【分布】：北海道、本州、四国、九州 【形態】：ニホントカゲに比べずっと細身で尾は長く全長の 3 分の 2 強。体色は背面が褐色、腹面は白または黄色。体側に白と暗褐色の縞がはしる。背面の鱗にはうね(キール)があり、ザラザラした感じ。幼体の体色は全体に暗く、特に尾部は顕著。昼行性でクモ類や昆虫類、ダンゴムシなど陸生甲殻類などを食べる肉食性。尾は自切する。 【確認状況】：春季及び夏季に計画地に隣接する北側堤防上で、成体が確認された。</p>	
--	---

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、両生類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(カ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-16(1)～(4)に示すとおり 9 目 82 科 246 種の昆虫類が確認された。

計画地及びその周辺は、造成後の草地で全体は乾燥しており、帰化植物が大半を占めている。確認された主な昆虫類は、ショウリョウバッタ、クルマバッタモドキ、アワダチソウグンバイ、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモン、ツメクサガ、ミドリマメゴモクムシ、シバオサゾウムシ等の草地性昆虫が確認された。一方で、調査地の一部には湿地跡が見られ、ヨシ、ガマ、イ等の植物が生育しており、ハラビロトンボ、チョウトンボ、コハンミョウ、ケシゲンゴロウ等の湿地性昆虫が確認された。

表 9.3-16(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
1	トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	アジイトトンボ				○		
2		トンボ科	ショウジョウトンボ			○			
3			ハラビロトンボ		○	○			
4			シオカラトンボ			○	○		
5			ウスハネトンボ				○	○	
6			チョウトンボ				○		
7			アキアカネ		○			○	
8	ハサミシ目(革翅目)	マルムネサミシ科	キアシサミシ				○	○	
9	ハゲタ目(直翅目)	ツユムシ科	ツユムシ	○		○			
10		キリギリス科	ウスイロササキリ			○			
11			ホシササキリ		○		○	○	
12			ヒメキリス			○			
13			クビキリギリス			○			
14		ケラ科	ケラ			○	○		
15		マツムシ科	ヒロハネカシタン	○				○	
16		コオロギ科	ハラオカメコオロギ	○				○	
17			ミツカドコオロギ	○				○	
18			モリオカメコオロギ	○					
19			エンマコオロギ				○	○	
20			ツツレサセコオロギ					○	
21		ヒバリモドキ科	マダラズ	○		○			
22			シハス	○			○		
23		ハゲタ科	ショウリョウハゲタ			○	○	○	
24			マダラハゲタ				○	○	
25			ショウリョウハゲタモドキ	○					
26			トノサマハゲタ	○		○		○	
27			クルマハゲタモドキ				○		
28			イホハゲタ				○		
29		イナゴ科	ツチイナゴ	○				○	
30		オンパゲタ科	オンパゲタ				○	○	
31		ヒシハゲタ科	ハネカゲヒシハゲタ	○			○		
32			ハラヒシハゲタ			○	○		
33		カメシ目(半翅目)	ウンカ科	タチヤマシウンカ			○		
34				テラウチウンカ	○			○	
35				コブウンカ				○	
36			セミ科	アブラゼミ				○	
37				ミンシゼミ				○	
38	ツノゼミ科		マルツノゼミ			○			
39	アワキムシ科		ハマヘアワキ	○	○	○	○	○	
40	ヨコバエ科		ヒメアオスキヨコバエ		○	○	○	○	
41			オオヨコバエ	○	○	○	○	○	
42			オオトカリヨコバエ					○	
43			トカリヨコバエ	○				○	
44			クロヒラタヨコバエ					○	
45			マダラヨコバエ			○		○	
46			ヒメヨコバエ亜科			○			
47	サシカメ科		クロモンサシカメ				○		
48	グンバエムシ科		アワタチソウグンバエ		○	○	○	○	
49	ハナカメムシ科		ナニヒメハナカメムシ		○	○		○	
50	カスミカメムシ科		ナカゲロカスミカメ				○	○	
51			ツマクロアサカスミカメ			○		○	
52			アサカホシカスミカメ	○					
53			フタトゲムシカスミカメ			○			
54			ウスモンミドリカスミカメ	○					
55			イネホソミドリカスミカメ			○		○	
56	マキハサシカメ科		ミナミマキハサシカメ	○					
57			ハネカメマキハサシカメ		○	○	○	○	
58	ホシカメムシ科		フタモンホシカメムシ	○	○	○			
59			クロホシカメムシ					○	
60	ホソハラカメムシ科		ホソハラカメムシ			○	○		
61	ヘリカメムシ科		ホソハラカメムシ	○	○		○		
62	ヒメハラカメムシ科		ヒメトゲヘリカメムシ		○	○			
63			アサヒメハラカメムシ					○	
64	アチヒゲヒメハラカメムシ科		アチヒゲヒメハラカメムシ	○	○	○	○		
65									
66	イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ				○	○		
67	ナカカメムシ科	ニッポノコバエナカカメムシ			○				
68		ヒメオオナカカメムシ	○	○	○	○	○		
69		サヒヒョウタンナカカメムシ				○	○		
70		ヒメナカカメムシ	○	○	○	○	○		
71		ヒゲナカカメムシ		○		○			
72		スコットヒョウタンナカカメムシ					○		
73		クロアシホソナカカメムシ			○	○			
74		オオナカカメムシ				○	○		
75		ムラサキナカカメムシ				○			
76		イナゴチヒゲナカカメムシ			○				
77		ヒメシユウシナカカメムシ					○		

表 9.3-16(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季
78		カメシ科	シロヘリクチア ^ト カメシ	○				
79			ムラサキカメシ	○				
80			フ ^チ ヒケ ^カ カメシ		○	○		○
81			マルシラホシカメシ			○		
82			シラホシカメシ	○	○	○	○	○
83			アカシ ^カ カメシ		○			
84			アオクサカメシ	○				
85			シミアカメシ				○	○
86			イチモンジ ^カ カメシ	○		○	○	○
87			オオクロカメシ				○	
88		マルカメシ科	マルカメシ	○	○	○	○	○
89	アミメカゲ ^ロ 目(脈翅目)	クサカゲ ^ロ 科	クモンクサカゲ ^ロ		○			
90			ヤマトクサカゲ ^ロ		○	○		○
91	チョウ目(鱗翅目)	ハマキ ^カ 科	アカシ ^キ イロハマキ			○		
92		セセリチョウ科	イチモンジ ^セ セリ	○	○		○	○
93			チャバ ^ネ セセリ			○		○
94			キマダ ^ラ セセリ				○	
95		シジ ^ミ チョウ科	ツバ ^ミ シジ ^ミ			○		
96			ウラナシジ ^ミ	○				○
97			ヘ ^ニ シジ ^ミ	○		○		○
98			ヤマトシジ ^ミ 本土亜種			○	○	○
99		タテハチョウ科	ツマグ ^ロ ヒョウモン		○			○
100			ヒメアカタテハ	○	○		○	○
101			アカホ ^シ ゴ ^マ ダ ^ラ				○	
102			キタテハ					○
103			アカタテハ					○
104		アゲ ^ハ チョウ科	アオシ ^ジ アゲ ^ハ				○	○
105			キアゲ ^ハ			○		
106			ナミアゲ ^ハ				○	
107		シロチョウ科	モンキチョウ	○	○			○
108			キタキチョウ					○
109			モンシロチョウ	○			○	
110		ツトガ ^カ 科	ワモンノメイ ^カ	○		○	○	
111			マエアカシノメイ ^カ		○			
112			シロホ ^シ ノメイ ^カ	○			○	
113		メイ ^カ 科	アカマダ ^ラ メイ ^カ			○		
114		ヤカ ^カ 科	カフ ^ラ ヤカ ^カ		○			
115			オオタバ ^コ カ ^カ		○			
116			ツメクサ ^カ		○			
117			スジ ^キ リヨウ			○		
118	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	ユスリカ科	○				
119		ムシヒキア ^ブ 科	アオムア ^ブ			○	○	
120			ウス ^ク ロムシヒキ		○			
121		ハナア ^ブ 科	フタシ ^ジ ヒラタア ^ブ					○
122			ホソヒラタア ^ブ	○				
123			キコ ^シ ハナア ^ブ	○				○
124			シマハナア ^ブ					○
125			ナミハナア ^ブ	○				○
126			ナミホシヒラタア ^ブ	○				
127			アシ ^ブ トハア ^ブ					○
128			ホソツヒラタア ^ブ		○			○
-			Melanostoma 属	○				
129			シママヒラタア ^ブ			○		○
130			ヒラママヒラタア ^ブ				○	
131			オオハナア ^ブ	○				○
132			ホソヒラタア ^ブ		○	○		○
133			キタヒラタア ^ブ		○			
134		ショウ ^ジ ヨウ ^ハ エ科	キイロショウ ^ジ ヨウ ^ハ エ	○				
135		ヤチ ^ハ エ科	ヒケ ^ナ ヤチ ^ハ エ				○	○
136		ツヤホリ ^ハ エ科	ヒトデンツヤホリ ^ハ エ					○
137		ミ ^ハ エ科	ヒラヤマミメク ^フ カミ ^ハ エ		○			
138		クロ ^バ エ科	赤 ^ク ロオ ^ビ キン ^ハ エ	○				
139			Lucilia 属	○				
140			ツマグ ^ロ キン ^ハ エ	○			○	○
141		フン ^バ エ科	ヒメフン ^ハ エ					○
142		イ ^エ バ ^エ 科	セマダ ^ラ イ ^エ バ ^エ	○				
-			イ ^エ バ ^エ 科	○				
143	コウ ^{チュウ} 目(鞘翅目)	ホク ^ビ ゴ ^ミ ムシ科	ミテ ^ラ ゴ ^ミ ムシ		○		○	
144		オ ^チ ムシ科	キイ ^ロ チ ^ビ ゴ ^ミ ムシ			○		
145			ト ^ゲ アト ^キ リ ^コ ミムシ					○
146			ナ ^カ マル ^カ タ ^コ ミムシ	○				
147			ヒメツヤマル ^カ タ ^コ ミムシ	○				
148			ゴ ^ミ ムシ	○				
149			キ ^ハ リ ^コ モク ^ム シ			○		
150			ムナ ^ヒ ロ ^ア オ ^コ ミムシ				○	
151			セ ^ア カヒラ ^タ ゴ ^ミ ムシ	○				○
152			オ ^オ ス ^ケ ゴ ^ミ ムシ	○				

表 9.3-16(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
153			アカアシマルカ ^ゴ モクムシ					○
154			キクヒ ^ア オトキリコ ^ミ ムシ	○				
155			コルリ ^ア トキリコ ^ミ ムシ			○		
156			ホソチビ ^コ ムシ			○		
157			オオナカ ^コ ムシ		○		○	○
158			コガ ^シ ナガ ^コ ムシ				○	
159			アシミ ^ゾ ナガ ^コ ムシ				○	
160			ホソウタ ^ン コ ^ミ ムシ				○	○
161			ナガ ^ヒ ョウタン ^コ ムシ		○	○	○	
162			ミト ^リ マモ ^コ モクムシ		○	○	○	
163			マルカ ^タ ツツヒ ^ラ タ ^コ ムシ	○				
164			ヨツモン ^コ ミズ ^キ ワ ^コ ムシ			○	○	
165		ハニョウ科	コハニョウ			○	○	
166		ゲンコ ^ロ ウ科	シマゲン ^コ ロウ			○	○	
167			ホソセシ ^ン ゲン ^コ ロウ			○	○	
168			チビ ^{ゲン} コ ^ロ ウ			○		
169			ケン ^コ ロウ				○	
170			チャイロチビ ^{ゲン} コ ^ロ ウ			○		
171			ヒメ ^{ゲン} コ ^ロ ウ	○				
172		ガムシ科	ヒメガムシ				○	
173		シテムシ科	オオヒラシテムシ				○	
174		ハナクシ科	ニセコ ^シ セ ^シ ハナクシ			○		
175			アカハ ^ナ カ ^ハ ハナクシ	○				
176			Philonthus 属			○	○	
177		コガ ^ネ ムシ科	アト ^ウ カ ^ネ				○	
178			セマ ^タ ラコ ^ガ ネ			○		
179			マモ ^カ ネ				○	
180			シロテン ^ハ ナム ^ク リ				○	○
181		コメツキムシ科	サビ ^キ コリ			○	○	○
182			コガ ^タ ヒメサビ ^キ コリ				○	○
183			ハマハ ^オ オヒメサビ ^キ コリ				○	○
184			クシ ^コ メツキ			○		
185			クロクシ ^コ メツキ		○			
186			カントウ ^キ ミズ ^キ ワ ^コ メツキ		○	○		
187			マダ ^ラ チビ ^コ メツキ	○				
188		ヒゲ ^フ ト ^コ メツキ科	ナガ ^ヒ ゲ ^フ ト ^コ メツキ			○		
189		ホタル科	ノハラ ^ホ タル				○	
190		テントウムシ科	ミス ^シ キイロテントウ			○		
191			ナホシテントウ	○	○	○		○
192			ナミテントウ		○	○		○
193			シ ^ユ ウサンホシテントウ			○		
194			ヒメカ ^メ ノテントウ			○	○	○
195			クモカ ^タ テントウ					○
196			ハ ^ハ ヒメテントウ					○
197		テントウムシ ^ダ マシ科	ヨツホ ^シ テントウ ^ダ マン		○			
198		ヒメキムシ科	ウスキ ^ケ シマキムシ			○		
199			ウスチャ ^ケ シマキムシ			○		
200		アリモト ^キ 科	ケオヒ ^{アリ} モト ^キ				○	○
201		ハナ ^ミ 科	クロヒメ ^ハ ナ ^ミ		○			
202		コ ^シ ムシ ^ダ マシ科	コスタ ^コ シムシ ^ダ マン	○		○	○	
203		カミキリムシ科	シラ ^ヒ コ ^マ フケシカミキリ			○		
204		ハムシ科	アカハ ^ナ カ ^ミ ナリハムシ			○		
205			アオハ ^ネ サ ^ル ハムシ			○	○	
206			アズ ^キ マ ^ゾ ウムシ			○	○	
207			ヨモ ^キ ハムシ	○	○			
208			マル ^キ ハ ^ネ サ ^ル ハムシ		○	○	○	
209			ト ^ウ カ ^ネ サ ^ル ハムシ				○	
210		ゾ ^ウ ムシ科	イチ ^コ ハ ^ナ ゾ ^ウ ムシ		○			
211			チビ ^メ ナ ^カ ゾ ^ウ ムシ		○	○	○	
212			オオ ^タ コ ^ゾ ウムシ	○				○
213			コ ^フ キ ^ゾ ウムシ		○	○	○	
214			ツメ ^カ サ ^タ コ ^ゾ ウムシ		○			
215			アル ^フ アル ^フ ア ^タ コ ^ゾ ウムシ	○	○		○	
216			ギサ ^イ ゾ ^ウ ムシ			○		
217			チビ ^ヒ ョウタン ^ゾ ウムシ		○			
218			サビ ^ヒ ョウタン ^ゾ ウムシ		○	○	○	○
219			ケチ ^ビ コ ^フ キ ^ゾ ウムシ	○		○		○
220		オサ ^ゾ ウムシ科	シハ ^オ サ ^ゾ ウムシ		○			
221	ハチ目(膜翅目)	アシ ^フ ト ^コ ハ ^チ 科	キアシ ^フ ト ^コ ハ ^チ	○				○
222		アリ科	アシ ^ナ ガ ^{アリ}	○				
223			クロ ^オ アリ			○	○	○
224			クロ ^ギ アリ	○	○		○	○
225			シワ ^ク シ ^ケ アリ	○				
226			オオ ^ハ アリ	○				
227			ア ^ミ アリ					○
228			トビ ^イ ロ ^シ アリ		○	○	○	○
229		ト ^ロ ハ ^チ 科	オオ ^フ タ ^オ ヒ ^ト ロ ^ハ チ				○	
230			キアシ ^ト ク ^リ ハ ^チ				○	

表 9.3-16(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度		平成 26 年度		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
231			ミカトトロボチ				○	
232			キオヒチヒトロボチ				○	
233		スズメバチ科	フタモンアシナガバチ	○	○	○	○	○
234			セグロアシナガバチ				○	
235		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ	○			○	○
236			キオヒツチバチ			○		
237		キンケチバチ科	ナミキンケチ				○	
238		アナバチ科	アメリカシガバチ			○		
239		ミツバチ科	ニホンミツバチ					○
240			セイヨウミツバチ	○			○	○
241			ニッポンヒゲナガハナバチ		○			
242			ダクイヨウキマダラハナバチ		○			
243			キムネクマバチ		○	○	○	○
244		コハナバチ科	アカガネコハナバチ			○	○	○
245			アオシハナバチ				○	
246		ヒメバチ科	マダラヒメバチ	○				
計	9 目	82 科	246 種	76 種	63 種	102 種	109 種	91 種

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.3-17 に示す 11 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.3-18(1)及び(2)に示すとおりである。







表 9.3-17 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	トンボ目	トンボ科	ハラビロトンボ				VU
2			チョウトンボ				NT
3	ハッタ目	マツシ科	ヒロハネカンタン				DD
4		ハッタ科	ショウリョウバッタモドキ				VU
5	コウチュウ目	ホソビロコシミシ科	ミイテラコシミシ				CR
6		オサムシ科	ムナヒロアオコシミシ				NT
7			オオカコシミシ				NT
8		ハンショウ科	コハンショウ				NT
9		ゲンゴロウ科	ケンケンゴロウ			NT	
10		ガムシ科	ヒメガムシ				VU
11		カミキリ科	シラホコマフケカミキリ				NT
計	3 目	9 科	11 種	0 種	0 種	1 種	10 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
CR:絶滅危惧 I 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

表 9.3-18(1) 注目される昆虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ハラビロトンボ</p> <p>【分布】：北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p>【形態】：腹部が極端に扁平となり、特にメスでは顕著。頭部前額は強い金属光沢のある青藍色。未熟個体は黄色を主体とした地色に黒色条斑がある。オスは成熟するにつれ黒味が増して、腹部に青白色の粉をまとう。メスはあまり変化しない。初夏から夏に見られる。</p> <p>【確認状況】：春季及び初夏に、計画地内外のカヤツリグサ草地を飛翔する個体が複数確認された。</p>	
<p>【種名】：チョウトンボ</p> <p>【分布】：本州、四国、九州</p> <p>【形態】：体は黒色で大きな翅を持つ。翅の黒色部の表側はオスでは紫藍色、メスでは金緑色に輝くが、メスでも紫藍色となる個体が時折ある。初夏から夏に見られる。</p> <p>【確認状況】：夏季に計画地内の草地を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p style="text-align: right;">出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒロバネカンタン</p> <p>【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島</p> <p>【形態】：淡緑色で、腹面は黒くならない。カンタンに似るが、オスの前翅はやや幅広く、メスの産卵器はやや長め。空地、畑地、荒地、海浜などに成立した乾性草地に生息する。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地内のするカヤツリグサやクズなどが生育する草地で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ショウリョウバッタモドキ</p> <p>【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島</p> <p>【形態】：黄緑色や淡緑色の個体が多いが褐色型も見られる。側面には触角先端から翅端まで濃色帯が通常である。高茎イネ科草地に生息し、主にチガヤの葉を摂食する。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地に隣接する草地環境で確認された。</p>	 <p style="text-align: right;">出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ミイデラゴミムシ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島</p> <p>【形態】：比較的大型の種。上翅は緑色を帯びた黒色で、肩部と中央の斑紋と翅端部が黄褐色。おどかすと、尾端から爆発音をともなってガスを噴射する。幼虫はケラの卵塊に寄生する。</p> <p>【確認状況】：春季～夏季に計画地内に設置したバイトトラップで確認された。</p>	
<p>【種名】：ムナビロアオゴミムシ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島</p> <p>【形態】：体は金緑色の細毛に覆われる。前胸背は幅広く、中央より後方で最も広い。近似種がいるが、腹面から見て、上翅側片基部に毛がなく、滑沢であることによっても区別できる。灯火によく飛来する。</p> <p>【確認状況】：夏季に計画地内に設置したバイトトラップで確認された。</p>	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

表 9.3-18(2) 注目される昆虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：オオナガゴミムシ 【分布】：北海道、本州、四国、九州 【形態】：黒色で大型の種。メスはやや光沢が弱い。クロオオナガゴミムシに似ているが、前胸背板は幅広く、基部両側の凹陷の外側に、明瞭な縦隆条がある。 【確認状況】：春季及び夏季に計画地内に設置したベイトトラップで確認された。</p>	
<p>【種名】：コハンミョウ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島 【形態】：エリザハンミョウに似るがやや縦長で大型、白帯の形状も異なる。メスの上翅中央に鏡状紋を持つ。成虫は夏を中心に出現し、幼虫で越冬する。 【確認状況】：初夏に計画地内に設置したライトトラップで確認されたほか、夏季には調査範囲の低茎草地で確認された。</p>	
<p>【種名】：ケシゲンゴロウ 【分布】：北海道・本州・四国・九州 【形態】：オスは背中に光沢があるがメスでは光沢は鈍い。オス腹部第2節中央にある縦の隆起は強く、横から見て角ばる。 【確認状況】：夏季に計画地内に設置したライトトラップで確認された。</p>	
<p>【種名】：ヒメガムシ 【分布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形態】：背面は黒色で鈍い光沢がある。コガムシに似るが明らかに小型でイ本型もやや細い。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 【確認状況】：夏季に計画地内に設置したライトトラップで確認された。</p>	
<p>【種名】：シラオビゴマフケシカミキリ 【分布】：北海道、本州、四国、九州 【形態】：触角は上翅端を越える。体は平たくて幅広く、上翅の中央直後に白黄帯を持ち、暗色部には微小な白黄紋をちりばめる。成虫は初夏から夏に出現し、クワ類など各種の細い枯れ枝に集まる。 【確認状況】：初夏に計画地に隣接するニセアカシアの枯枝で確認された。</p>	

出典：「新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻」

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)、「新訂原色日本昆虫大図鑑 II 甲虫編」(平成 19 年 5 月 (株)北隆館)による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-19 に示すとおり 1 目 7 科 28 種のクモ類が確認された。

草地環境が中心であり、ハラクロコモリグモ、マミジロハエトリ等の徘徊性クモ類や、ハナグモ、シロスジグモ等、葉上や花の上で待ち伏せを行うクモ類が多く見られた。造網性クモ類は、ユウレイグモ、アシナガグモ等が見られた。

表 9.3-19 クモ類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季
1	クモ目	ユウレイグモ科	ユウレイグモ	○				
2		アシナガグモ科	トカリアシナガグモ	○	○		○	
3			アシナガグモ				○	
-			Tetragnatha 属				○	
4		コガネグモ科	コガネグモ				○	
5			ナガコガネグモ			○		
-			Argiope 属					○
6			Larinia 属				○	
7			ナカムラサキグモ	○				
8		コモリグモ科	トヨコグモ		○		○	○
9			クロコモリグモ				○	
10			ハラクロコモリグモ		○		○	○
-			Lycosa 属					○
11			ウツキコモリグモ	○	○	○	○	
12			キツキコモリグモ				○	
-			Pardosa 属			○	○	○
13			イモコモリグモ		○	○	○	
-			Pirata 属		○			
14			ナカスギキコモリグモ			○	○	
15		エビグモ科	シヤコグモ	○				
16		カニグモ科	ハナグモ		○			
17			シロスジグモ		○		○	
18			ヤミロカニグモ	○				
19			チュウカカニグモ			○		
20			ゾウシキカニグモ				○	
21			ヨコカニグモ				○	
-			Xysticus 属		○	○		○
-			カニグモ科	○				
22	ハエトリグモ科	マミジロハエトリ				○		
23		チクエハエトリ				○		
24		オスクロハエトリ				○		
25		キハスハエトリ		○				
-		Mendoza 属				○		
26		アリグモ	○					
27		クワカクタイグモ				○		
28		シラホシコグモチクハエトリ			○			
-	ハエトリグモ科	○				○		
計	1 目	7 科	28 種	7 種	9 種	6 種	18 種	6 種

b. 注目される種

確認されたクモ類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.3-20 に示す 2 種が該当した。

注目されるクモ類の生態及び確認状況は、表 9.3-21 に示すとおりである。



表 9.3-20 注目されるクモ類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	クモ目	コガネグモ科	コガネグモ				VU
2		カニグモ科	ヨコフカニグモ				NT
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト クモ類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

表 9.3-21 注目されるクモ類の生態及び確認状況

<p>【種名】：コガネグモ</p> <p>【分布】：本州、四国、九州、南西諸島</p> <p>【形態】：メスの背甲は黒褐色の地に銀白色の毛が密生する。腹部背面には黄色と黒色の太い横縞模様がある。オスは全体に黄褐色で別種のように見える。腹部の色彩や独特の斑紋からメスの識別は容易である。大きい円網を張る。</p> <p>【確認状況】：夏季に調査範囲西側の草地で網を張る個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ヨコフカニグモ</p> <p>【分布】：北海道、本州、九州</p> <p>【形態】：メスの背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線條や黒斑がある。オスは初期にはメスと同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。狩猟性で網を張らない。</p> <p>【確認状況】：夏季に計画地内の低茎草地で確認された。</p>	

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 3) 地形及び地物の状況」(p. 68 参照) に示したとおりである。計画地は、沖積低地に位置し、埋立てにより平坦化された人工地盤の区域となっている。計画地及びその周辺は、地盤面が T. P. +5m 程度の平坦な地形である。地質の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.3.1 現況調査 (4) 調査結果 2) 地形・地質の状況」(p. 112 参照) に示したとおりである。計画地及びその周辺は、上総層群を基盤として、その上位に江戸川層、東京礫層、七号地層が堆積し、表層付近に有楽町層が堆積し、その上位に埋立層が存在する。

イ. 植生等の状況

植生等の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4) 調査結果 5) 植生の状況」(p. 118 参照) に示したとおりである。計画地及びその周辺は、「市街地」、「造成地」の占める割合が多くなっている。

計画地の南西側には有明テニスの森公園、東京臨海広域防災公園には「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布している。また、現地調査による計画地及びその周辺の現存植生の状況は、図 9.2-10 (p. 120 参照) に示すとおりである。計画地及びその周辺は、セイタカアワダチソウ群落、チガヤ群落が広く分布し、東雲運河の周囲にカゼクサ-オオバコ群落が見られる。計画地内の南側は人工構造物と人工裸地となっている。

ウ. 大気環境

大気環境の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 1) 大気等の状況」(p. 57 参照) に示したとおりである。

気象の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4) 調査結果 6) 気象の状況」(p. 121 参照) に示したとおりである。計画地周辺の東京管区気象台における年間降水量及び年平均気温の平年値(昭和 56 年～平成 22 年)は、1,528.8mm、16.3℃である。

エ. 地域社会とのつながり

計画地の南西側には、有明テニスの森公園、東京臨海広域防災公園等には「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布し、都市部に整備された緑地が広がっており、散歩、ジョギング、サイクリング等多数の市民利用がある。また、計画地は東雲運河と隣接しており、対岸の豊洲地区に整備された公園でも同様の利用が見られるほか、運河沿いのデッキ等では釣りが楽しめるなど、都市部の開放的な水辺空間を身近に感じることもできる場となっている。計画地内は、造成地に自然繁茂した草地が広がる未利用地となっている。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.3-22 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の 3 区分に分類される。これらの環境区分で見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.3-2 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではケヤキ、アカメガシワ、トウネズミモチ等の植栽樹林、草地環境ではセイタカアワダチソウ、チガヤ、シロツメクサ、ヨモギ、エノコログサ、ヨシ、ヒメガマ等の草本群落、市街地等ではサルスベリ、アメリカヤマボウシ等があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、セミ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、ヒナコウモリ科の哺乳類、オナガ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、スズメ等の鳥類のほか、は虫類のニホンカナヘビがあげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等があげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く小型鳥類や昆虫類を捕食するハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウの猛禽類があげられる。

表 9.3-22 環境区分別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		計画地及びその周辺は、沖積低地に位置し、埋立てにより平坦化された人工地盤の区域となっている。計画地周辺は平坦地であり、標高は約5mである。 上総層群を基盤として、その上位に江戸川層、東京礫層、七号地層が堆積し、表層付近に有楽町層が堆積し、その上位に埋立層が存在する。		
環境区分別の状況		樹林環境は、計画地内では実生由来のアカメガシワやトウネズミモチ等の低木がわずかに生育している。計画地の周辺では、街路樹等としてケヤキやサルスベリ、アメリカヤマボウシ、サツキ、ドウダンツツジ等が植栽されている。 主な動物相は樹林環境に依存するコゲラ、シジュウカラ等の鳥類、アブラゼミ等のセミ目のほか、シラオビゴマフケシカミキリ等のコウチュウ目が生息する。	草地環境は、計画地の大部分を占有し比較的乾燥した箇所ではセイタカアワダチソウやチガヤ、シロツメクサ、エノコログサ等が生育している。また、水分の多い箇所ではヨシ、ヒメガマ等が生育している。また、計画地周辺にも同様の草地環境が広がっている。 主な動物相は、草地環境に依存するヒバリ、オオヨシキリ等の鳥類のほか、ヒロバネカンタン、ショウリョウバッタ等の昆虫類やアシナガグモ等のクモ類が生息する。	計画地内の南側には、事務所等があり人工裸地と人工構造物が存在する。計画地周辺は、専用商業施設、教育文化施設、集合住宅、専用工場、等からなる市街地が形成されている。 市街地は主に人工構造物で占められているが、道路沿いの街路樹にはケヤキやサルスベリ、アメリカヤマボウシ等の植栽が見られる。 主な動物相は、ヒナコウモリ科の哺乳類、チョウ類等の昆虫類やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。
生態系構成要素	最上位消費者	鳥類：ハイタカ、ノスリ	鳥類：チョウゲンボウ、ノスリ	鳥類：チョウゲンボウ
	上位消費者	鳥類：モズ	鳥類：モズ、ハシブトガラス	鳥類：ハシブトガラス
	中位消費者	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：オナガ、シジュウカラ、キビタキ等 クモ類：コガネグモ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：ヒバリ、ヒヨドリ、オオヨシキリ等 は虫類：ニホンカナヘビ クモ類：アシナガグモ、ユウレイグモ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：ツバメ、スズメ等 は虫類：ニホンカナヘビ
	下位消費者	鳥類：キジバト等 昆虫類：アブラゼミ、シラオビゴマフケシカミキリ等	鳥類：キジバト等 昆虫類：ヒロバネカンタン、ショウリョウバッタモドキ、ショウリョウバッタ、イチモンジセセリ等	昆虫類：アオスジアゲハ、ミイデラゴミムシ等
	生産者	植物：ケヤキ、アカメガシワ、トウネズミモチ等	植物：セイタカアワダチソウ、チガヤ、シロツメクサ、ヨモギ、エノコログサ、ヨシ、ヒメガマ等	植物：サルスベリ、アメリカヤマボウシ、サツキ、ドウダンツツジ等

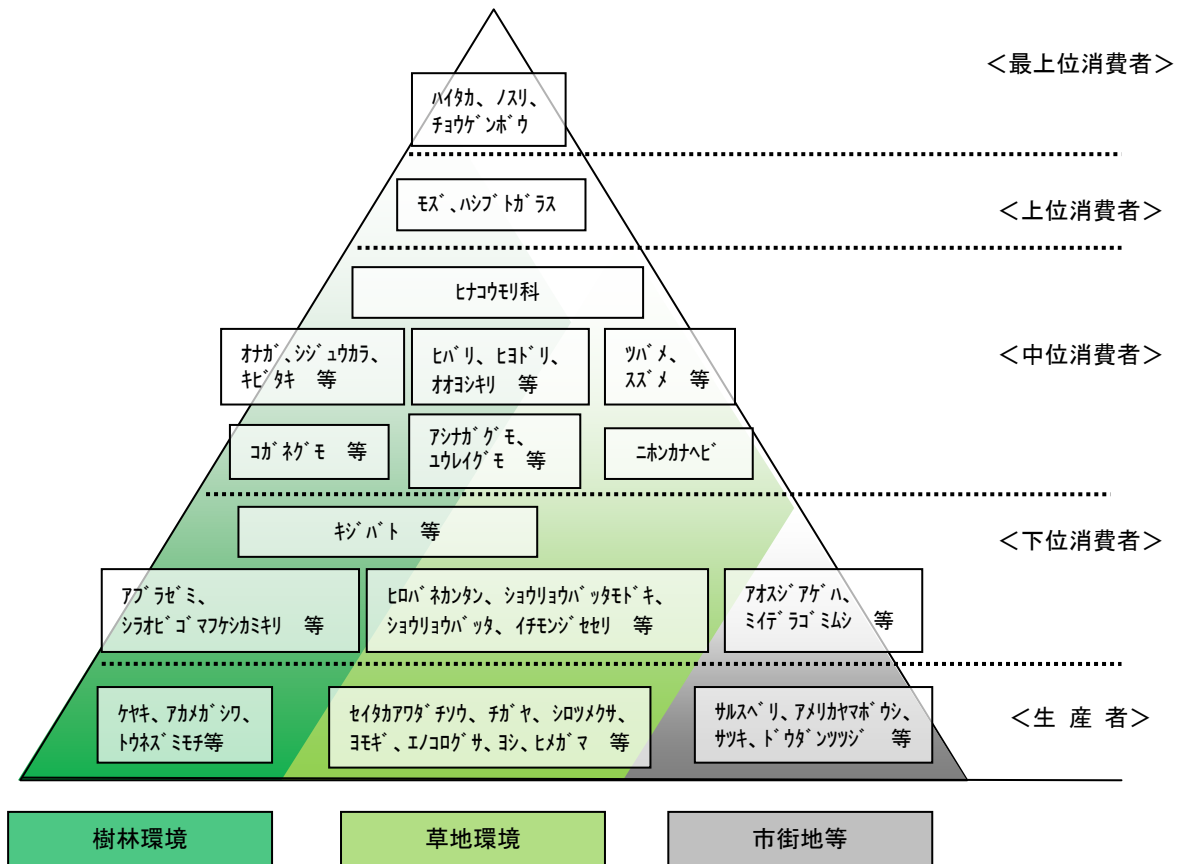


図 9.3-2 食物連鎖に注視した生物相の階層構造

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 4)土地利用の状況」(p. 69 参照) に示したとおりである。計画地は、平成 12 年度から平成 17 年度に埋め立てられた地域で、土地利用は未利用地となっている。計画地南東側には江東区有明小学校や江東区有明中学校、有明医療大学等の教育施設があるほか、集合住宅や倉庫・運輸関係施設が存在する。南側には東京臨海広域防災公園やシンボルプロムナード公園、南西側には有明テニスの森公園等の公園・運動場等があるほか、事務所建築物、宿泊・遊興施設等がある。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.3-23(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.3-23(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	<p>(文化財の定義)</p> <p>第二条</p> <p>四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。）</p> <p>(現状変更等の制限及び原状回復の命令)</p> <p>第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。</p>
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。</p> <p>(責務)</p> <p>第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。</p> <p>2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。</p> <p>3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。</p> <p>(捕獲等の禁止)</p> <p>第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合</p> <p>二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合</p> <p>三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合</p>
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するとともに、猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保（生態系の保護を含む。以下同じ。）、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。</p> <p>(鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止)</p> <p>第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。</p> <p>二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。</p> <p>三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。</p>

表 9.3-23(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	(目的) 第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。 (飼養等の禁止) 第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合 二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合 (放出等の禁止) 第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合 二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.3-24 に示すとおりである。

表 9.3-24 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護管理事業計画 (平成 27 年 3 月 東京都)	・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護及び管理することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」を定める。 第一 計画の期間 第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項 第三 鳥獣の人工増殖に関する事項 第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項 第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項 第六 特定計画に関する事項 第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項 第八 鳥獣保護管理事業の実施体制に関する事項 第九 その他
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。

9.3.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、東京 2020 大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催前、大会開催後とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、東京 2020 大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内のセイタカアワダチソウ群落や、点在する外来種のトウネズミモチ、ハリエンジュ等の木本等の植物の生育地が改変される。これらの植生は、埋立後の造成地に自然繁茂したものであり、現地調査の結果によると、計画地内に注目される植物は生育していない。

事業の実施に当たっては、東京湾岸に生育可能な植物による緑環境を形成し、約 4,300m²の範囲に地上部緑化を行う計画としていることから、多様な植物相及び植物群落が創出されると予測する。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、草地を主たる生息地とする鳥類のヒバリ、は虫類のニホンカナヘビ、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目等の昆虫類の生息地が改変される。また、現地調査の結果、計画地内では鳥類のオオヨシキリ、は虫類のニホンカナヘビ、昆虫類のミイデラゴミムシ等の注目される種が確認されており、これらの生息地が改変される。

事業の実施に当たっては、東京湾岸に生育可能な植物による緑環境を形成し、約 4,300m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。これにより、確認された鳥類、は虫類、昆虫類等の動物相及び動物群集は維持され、生息地が創出されると予測する。なお、鳥類、は虫類、昆虫類等の注目される種は、計画地周辺においても確認されていることから、新たに創出された緑地を生息地として利用することが可能と考えられる。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境、土壌が改変され、点在する木本が伐採される。このため、草地環境に生育する植物と、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の生息環境が変化するおそれがあると予測する。

事業の実施に当たっては、東京湾岸に生育可能な植物による緑環境を形成し、約 4,360m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。これにより、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の多様な動植物の生育・生息環境が創出されると予測する。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草地環境、土壌が改変され、点在する木本が伐採される。このため、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係わる生育・生息環境が改変される。

事業の実施に当たっては、東京湾岸に生育可能な植物による緑環境を形成し、約 4,360m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。これにより、多様な生態系が創出されると予測する。

9.3.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・東京湾岸に生育可能な植物による緑環境の形成を行う計画としている。
- ・約 4,360m²の範囲に地上部緑化を行う。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・歩行者デッキ上に緑化を行い、敷地北側と南側に壁面緑化を行う計画としている。
- ・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。

9.3.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境や樹木等の伐採、土壌の改変が行われるが、埋立後の造成地に自然繁茂したものであり、計画地周辺の生物の生育・生息環境の改変の程度はほぼ生じないと考える。

事業の実施に当たっては、東京湾岸に生育可能な植物による緑環境を形成し、約 4,360m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。これにより、多様な動植物の生育・生息環境が創出され、周辺地域も含めた動植物の生育・生息環境は多様になるものと考えられる。さらに、歩行者デッキ上に緑化を行い、敷地北側と南側に壁面緑化を行う計画としており、動植物の生育・生息環境は向上すると考えられる。

以上のことから、計画地における生物の生育・生息環境は新たに創出され、計画地周辺も含めた地域としての生物・生態系の評価の指標は満足するものと考えられる。